

ヒジキ養殖試験

(全国豊かな海づくり協会，漁村研究実践活動助成事業)

鹿児島地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

中国・韓国や大分県等では，ヒジキの挟込み方式による養殖が盛んに営まれ，漁家経営の向上が図られているが，本県海域では未だにヒジキの養殖が行われていないことから，ヒジキの養殖技術を確立するため挟込み式の養殖試験を実施した。

【普及の内容・特徴】

1 事業の概要

鹿児島市喜入町中名地先(ヒトエグサ養殖場隣/水深1～3mの砂地)において，同町生見地先(離岸堤外側)に繁茂している天然ヒジキを座(仮根)から取り，直径10mmのPP口 - プ25mに3cm間隔で1カ所当たり3本ずつヒジキを挟み込み，さらに浮力を持たせるため，10mmのポリ口 - プ20mに5m間隔でインシュロックで留め，これを陸側から沖側に垂直に2セット張り，養殖試験を開始した。

今年度は，過去2回より収穫率を上げるため，座(仮根)を使用し，さらに挟み込み間隔を3cmに狭めた。また，今年度は過去2回と異なり，沿岸部で試験養殖を実施したのは，漁船が無くても定期的な調査が実施可能なこと及び漁船を所有しない高齢者でも効率的な養殖が可能かを確認するためである。

平成22年2月2日(火)に挟込みを開始し，4月15日(木)及び5月13日(木)に収穫するまでの約2～3ヶ月間は特に何も手をかけなかった。

2 試験の方法

試験方法は，ワカメの浮延縄式同様に実施し，20mの口 - プ(2セット)の両側の2カ所のアンカ - には土嚢袋(20kg×5袋×2ヶ所)を使用し，また，口 - プ両側には直径30cmのブイを付けた。

- (1) 設置場所.....鹿児島市喜入町中名地先/ヒトエグサ養殖場
水深：1～3m，底質：砂地
- (2) 挟込日時.....平成22年2月2日(火)
- (3) 使用口 - プ..... 挟込用：PP口 - プ(8mm)25m×2セット
浮力用：ポリ口 - プ(10mm)20m×2セット
- (4) 挟込間隔.....3cm
- (5) 挟込数.....1,667カ所(50m÷3cm)
- (6) 使用株数.....5,000株(3株/カ所×1,667カ所)
- (7) 使用株重量.....20.00kg
- (8) 単位重量.....4.00g(20.00kg÷5,000株)
- (9) 株使用場所.....鹿児島市喜入町生見地先/離岸堤外側

【成果・活用】

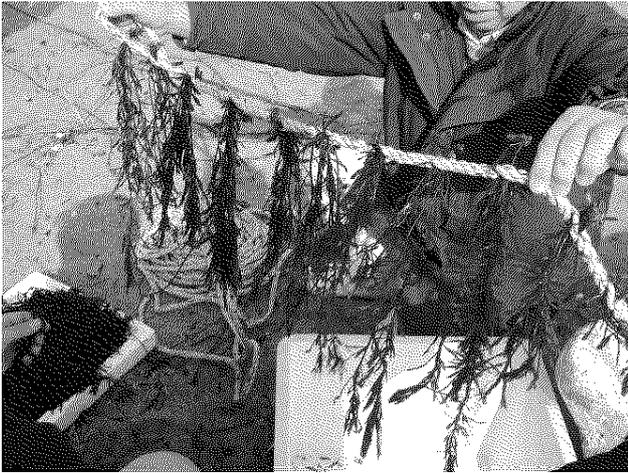
1 成果

結果については，平成19年度の113.6kg(50m)，平成20年度の188.8kg(50m)と比較して，今回は，1回目110.22kg(25m)と2回目232.9kg(25m)の計343.1kg(50m)と大幅に増加した。

2 活用

今後は，さらに収穫率を上げる方法として，挟込む間隔を3cm以下にすること及び1カ所当たりの挟み込む本数を3本以上にすること，並びに座(仮根)を使用することのほか，密生する方が成長が良いことから，挟み込んだ口 - プはシングルではなく，ダブルで展開することによって，収穫率が口 - プ1m当たり10kgを超えることが可能になると考える。そうすると，冬場の副業として，ヒジキ養殖は有効な経営手段に成り得ると考える。

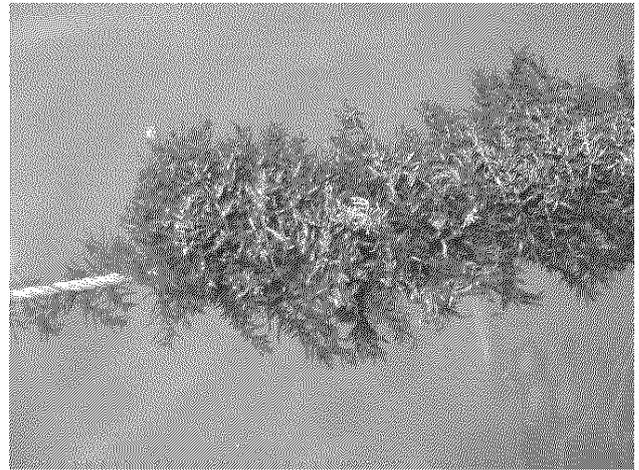
収穫率：(生重量)10kg/m (生重量)500kg/50m (乾燥重量)70kg/50m
(単価)800円/kg×70kg/50m=56,000円/50m



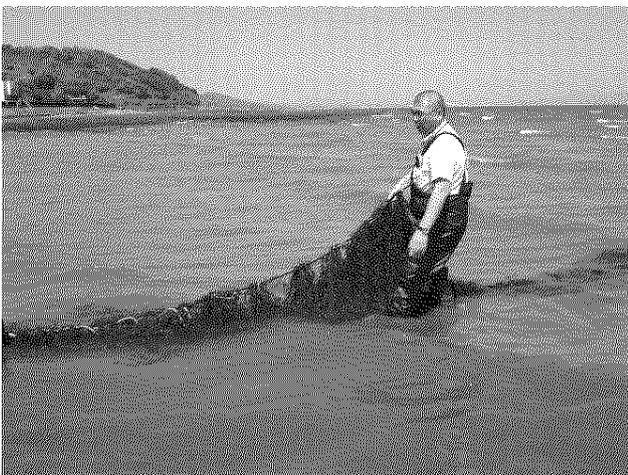
ヒジキ母藻挟み込み状況



ヒジキロープ設置状況



ヒジキ成育状況



ヒジキ成育状況